

# 『コロナ禍におけるメディア接触の実態や弊害をふまえた子どもの育ち支援事業』



特定非営利活動法人子ども達の環境を考えるひこうせん

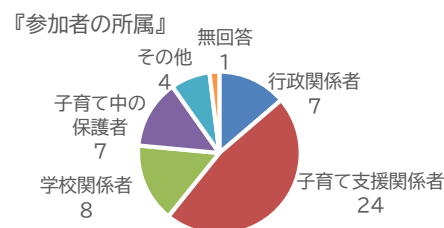
## 目的

全国的にギガスクール構想が進み、学校現場や家庭に波紋を呼んでいる現状がある。さらにそのことから起こり得る子ども達のメディア接触時間の増加、低年齢化、ネット依存、心身への悪影響など危機的状況が懸念される。そのことから子ども達の人権を守るために、子どもを取り巻く大人達が学び合う機会をつくり、より多くの支援者の方々に発信していく。

## 事業内容

### ◆講演会の開催

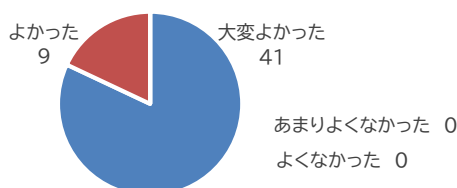
- 日時： 令和3年 11月 28日(日)13:00～15:30
- 場所： 岡山県生涯学習センター2F 大研修室
- テーマ： 『ギガスクール時代 激変する子どものメディア環境  
～子どもの育ちと学びを考える～』
- 講師： 清川輝基先生(NPO 法人子どもとメディア 代表理事)
- 参加人数： 58名 (岡山県社会教育関係者、小学校校長、小学校養護教諭、幼稚園長、子育て支援 NPO 団体、子育て中の保護者など)



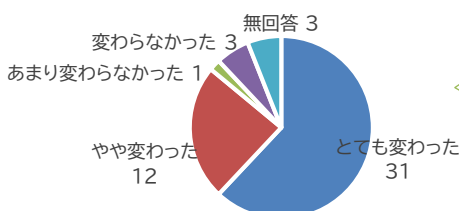
講演会当日、R2年度の地域パワーアップ事業で実施した『新型コロナウイルス感染拡大による子育て家庭の不安と 今後の課題アンケート』結果・『遊びと生活応援』アイデア集について報告し問題提起をした。

### ○当日アンケートより

『講演会はいかがでしたか？』



『講演会を聞いて意識は変わりましたか？』



「あまり変わらなかった」と回答した方の中には、日頃からのメディアコントロールの意識が確信に変わったという方が複数おられた。

### ◆子どもの発達を保障するための取り組みや工夫の紹介についての資料づくり

- (資料内容)
- ・講演会内容の概要
  - ・講演会アンケートより、家庭や職場でのメディアコントロールのアイデアを掲載
  - ・家庭のメディアコントロール取り組みの事例紹介(乳幼児家庭、小学生家庭、中学生家庭)

## 事業を実施して見えてきたこと

- ・メディアが及ぼす子どもの発達への影響について、科学的根拠に基づいて具体的な知識を得ることが出来た。
- ・行政や教育現場も、ギガスクール構想の整備にどのように対応していけばよいのか戸惑っていることが分かった。
- ・乳幼児からのメディア接触が進行する現代において、子どもとしての時間を大人が守ることの重要性を感じた。(子どもの貴重な時間を大人が奪わないなど)
- ・講演会の内容や趣旨が新聞や広報誌にも掲載され、幅広く社会に周知する機会となった。

## 今後に向けて

- ・子どもを取り巻くそれぞれの立場の大人が連携しながら、情報収集・発信していく。
- ・さらに大人が学び続けることのできる本事業のような機会を継続的・発展的に企画していく。
- ・ギガスクール構想が進む中、子どものより良い学びとは？またそれをどのように担保するのか？子どもの心身の健康と安全をどうすれば守れるのか？・・・を具体的に考えていく。
- ・子ども時代の「生の体験」ができる機会づくり、学校・家庭でのメディアコントロールの推進活動などを行なう。